

不自由の経験

獣医学科5年 吉田綾子

多分今、私は、歩けるようになってから一番ゆっくり歩いていると思う。

それは、足を骨折したからだ。ゆっくり歩くということは、常に早歩きの私には不自由さからいらいらすることが多く、無理をしてばかりいた。しかし、段々と諦めがつき、ゆっくりとした気持ちで周りが見られるようになった。

気付いたことがいくつかある。マンホールは滑るということ。障害者用のスロープは急すぎて使えない場所が多いこと。傘は片手が空いていないとさせないということ。

他人とのことで気付いたこともある。当然のことながら、親切な人とそうでもない人がいるということ。しかしそのなかでも急いでいるからという理由や、邪魔だったり、関わりたくない、といった様々な理由

があるということを感じた。

自分自身のことも気付いたことがある。

「仕方ない」と思うようになることで、自然とゆっくり動くようになった。しかし、あせった時とゆっくり動いた時ではできる内容に特に変わりがないということがわかり、衝撃的だった。

人との関わりも増えた。人から声をかけられることが増え、話すようになった。最寄り駅の駅員さんとは、会えば話すという仲になった。これも、骨折しなければ築けなかった関係だと思う。

そう思えば、不自由さは悪いことばかりではない。骨折が治れば、きっとまた今まで通りあわただしく動いてしまうのだろう。でも、不自由さを経験したことで周りの景色が広がったことは間違いはない。